

「桜の樹」

ニュースレター vol.51

岡倉天心記念
がん哲学外来
巣鴨カフェ
「桜」
2025.11

かかりつけの薬剤師について

ニャンコ先生

社団理事の宮原さんは、ご自身も薬剤師から表記「かかりつけの薬剤師」をもちなさいと、よく言われます。では「かかりつけの薬剤師」とはどんなものか書きます。

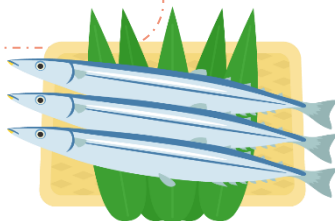
まず患者が自身で選び、継続的に服薬管理や健康相談などを任せる薬剤師のことです。役割としては複数の医療機関から処方された薬の情報を一元管理し、飲み合わせや重複投薬により、効果が弱まったり、逆に強まりすぎて副作用を起こす等のチェック、患者のアレルギー歴とのチェックを行います。

薬に関する相談だけでなく、健康全般、介護用品、健康食品(市販薬、サプリメント等)など幅広い相談に対応します。

患者の同意に基づき、医師に処方提案をすることもあります。場合によっては夜間や休日でも相談できる体制を整え、在宅医療の支援も行います以上より、メリットがある方は、複数の医療機関を受診している方、たくさんの種類の薬を服用している方、薬の飲み方や健康について不安や疑問のある方、緊急時にも相談できる相手がほしい方です。

手続きは利用したい薬局で、かかりつけ薬剤師に指名したい薬剤師に直接その旨を伝え、「同意書」に署名することで登録できます、これはいつでも変更、指名を解除することができます。料金は処方箋1回につき「かかりつけ薬剤師指導料」として76点(3割負担の場合、自己負担額は約230円)が加算されます。

私は先日人間ドックを受けたました際、その日にもらった速報血液検査結果の検査値の横には「L」とか「H」たくさんありました。正式検査結果は、まだわかりませんがいろいろありそうで、種々検討しなければと思っています。



冬鳥について

岡ちゃん

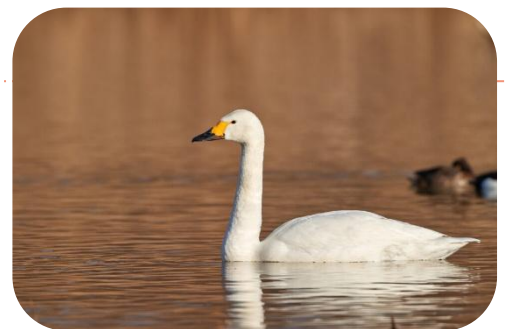
長い夏も終わり、短い秋を感じています。もうすぐやってくる冬の鳥、冬の渡り鳥について調べてみました。

冬になるとシベリアからやってくるハクチョウやカモ、ツグミなどの小鳥がいます。日本で冬を越すためにやってくる鳥たちを「冬鳥」といいます。

大地が雪と氷におおわれて、水面で生活する水鳥や、地面でさえ小鳥たちは生きていくことができません。冬鳥たちは、食べ物を求めてあたたかい日本へ渡ってくると考えられます。

代表的な冬の渡り鳥である「ツグミ」は、シベリアなどで繁殖し、秋、寒さがだんだん厳しくなると、餌を求めて日本に渡ってきます。秋の夜空から「ツィー」というツグミの声が聞こえると、冬を感じるのです。知らず知らずのうちに日本の四季に溶け込んで生活していたツグミ。遠いシベリアから飛んでくる冬鳥と知って、鳥の持つ素晴らしい本能や、生きる為の力強さを感じました。

人間や鳥、生きているもの全てが、今を精一杯生きている。それは本当に貴重で、かけがえのない時間であると思います。人間ができる限り自然を守り、渡り鳥たちが羽を休めて生活できる日本でありつづけられますように。心から願い祈りたいと思います。



岡倉天心記念がん哲学外来・巣鴨カフェ「桜」

sugamocafe.sakura@gmail.com

<https://sugamo-sakura.com/>

後援：一般社団法人がん哲学外来
がん哲学外来市民学会

代表 西原光治
編集 浦川 慶子